

## 点検停止中の3号機における警報の発生について

点検停止\*<sup>1</sup>中の3号機において、平成19年6月15日午前7時10分、「起動領域中性子束モニタ\*<sup>2</sup>チャンネル(C)ペリオド短短/機器動作不良」の警報が発生し、それにともない「原子炉自動スクラム(A系)\*<sup>3</sup>」の警報が発生しましたが、午前7時12分、解除しました。

その後、当該モニタのチャンネル(F)および(A)の警報がそれぞれ1回および6回発生し、それにともない原子炉自動スクラム(B系)および(A系)の警報がその都度発生しましたが、いずれも解除しました。

本事象については、いずれの場合も警報の発生したチャンネルの指示値が一時的に変動したものであり、警報がまもなく解除されていること、また、当該モニタに関する作業は実施していないことから誤動作と判断しております。

現在、警報発生の原因について調査しております。

なお、3号機は点検停止中であることから、制御棒が全挿入状態となっており、制御棒の動作はなく、安全上の問題はありません。

また、これによる外部への放射能の影響はありません。

以上

### \*1 点検停止

平成19年6月14日、定格熱出力一定運転中にタービンランドシール蒸化器出口配管のドレン配管取付部付近で蒸気漏れが認められたことから、点検および原因調査のため原子炉を手動停止することとした。(平成19年6月14日お知らせ済み)

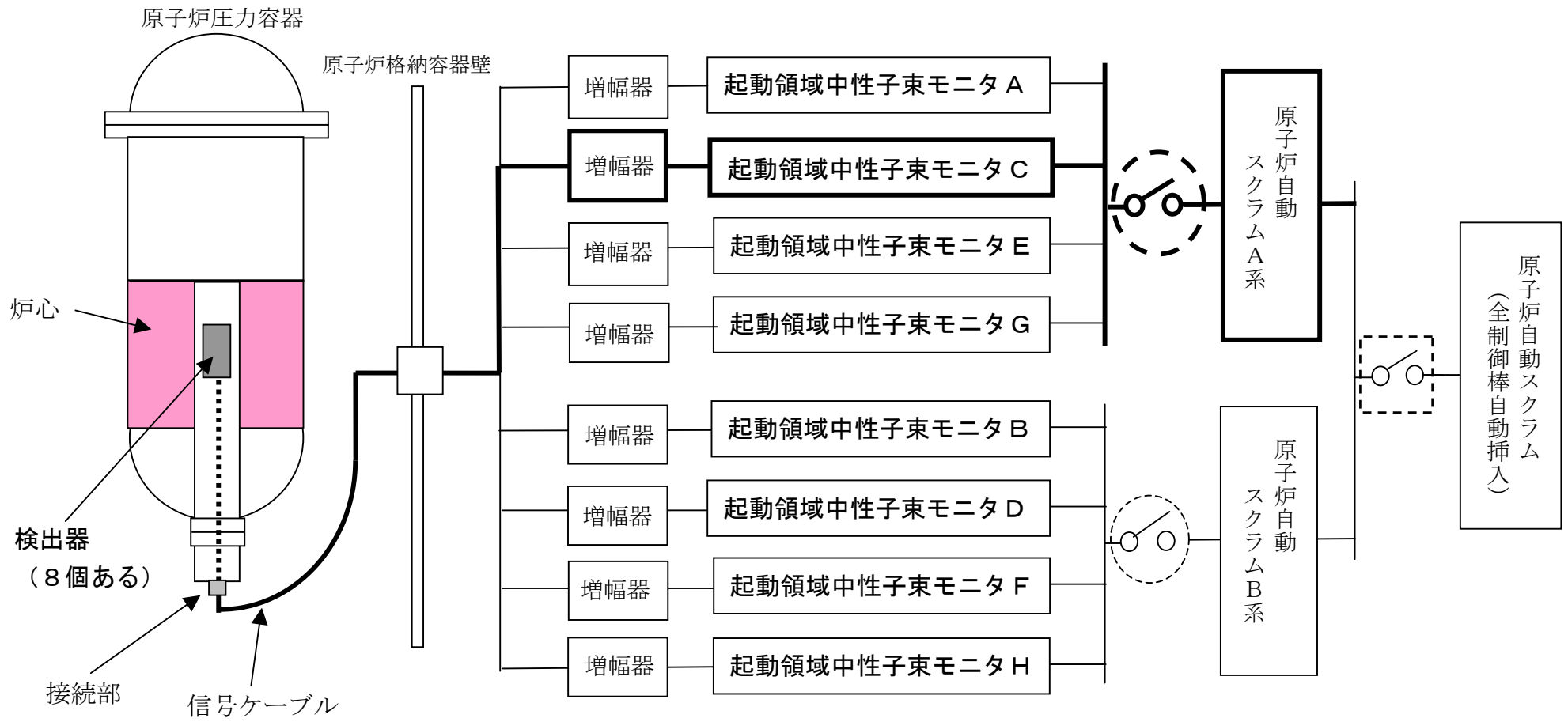
制御棒全挿入は、6月15日午前3時26分。

### \*2 起動領域中性子束モニタ

原子炉の停止中および低出力運転時に中性子の量を測定する装置(8チャンネルで構成されている)。

### \*3 原子炉自動スクラム(A系)

原子炉を緊急停止するための信号が片系統だけ発生した状態であり、制御棒は動作しない。スクラム信号はA・B両系が同時に発生することで制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止させる。



○: 4つのモニタのうち、1つでも信号が入るとスイッチがONする構造となっている。

□: A系・B系の2つの信号が入るとスイッチがONする構造となっている。

起動領域中性子束モニタ系 系統概略図